

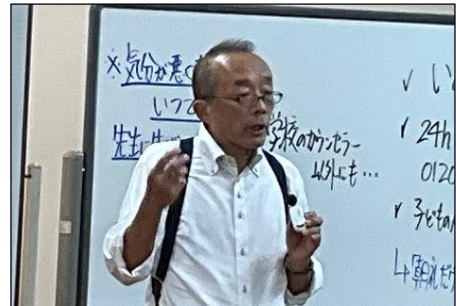
## 令和4年度千葉県知事特別顧問の藤原和博氏による 県立学校での特別授業を実施

県教育委員会では、令和4年9月からICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するために、令和4年度千葉県知事特別顧問に就任された藤原和博（ふじはら かずひろ）氏による特別授業を県立学校で計20回実施しましたので一部を紹介します。

### 藤原和博氏の紹介

#### 「朝礼だけの学校」校長

- ・元リクルート社フェロー
- ・元杉並区立和田中学校校長
- ・元奈良市立一条高等学校校長



アクティブ・ラーニングの手本となった「よのなか科」が『ベネッセ賞』、「地域本部」が『博報賞』、食育と読書活動が『文部科学大臣賞』をダブル受賞するなど、教育改革に多くの成果を上げ、現在も著作活動や講演を行っています。

### 授業テーマ①「10年後、君に仕事はあるのか？」（県立東葛飾中学校）



真剣に講義に耳を傾ける生徒

#### AIが活躍する時代に必要な力とは

生徒は、AIが人間に代わって行うであろう仕事と、今後も人間が行っていくであろう仕事について両者にどのような違いがあるか考え、話し合いました。

また、AIが得意とする「情報を処理する力（頭の回転の速さ）」ではなく、今後、これまで以上に社会から求められるであろう、AIが苦手とする「情報を編集する力（頭の柔らかさ）」を鍛える課題に挑戦しました。

#### 新しいアイデアを生み出すには

生徒は「掃除ロボットの未来の姿」をテーマに各自のアイデアを端末から発信し、互いに共有しました。最初は「拭き掃除もしてくれる」、「窓も拭いてくれる」等、生徒達は、掃除機のイメージの枠から抜け出せませんでした。

しかし、藤原氏から、掃除機の枠から抜け出して、より自由に発想してみるよう助言を受けた後、生徒からは「歌を歌ってくれる」、「話し相手になってくれる」等、多くのクリエイティブなアイデアが出ました。



各自考えたアイデアを端末から送信する生徒



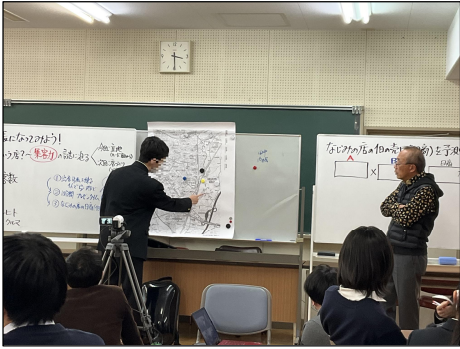


端末で情報を収集して出店場所を考える生徒

### 立地面から集客力の謎に迫る

グループ協議では、生徒から「学生狙いで大学の近くに出店してはどうか」、「二車線から入りやすい交差点」、「働く人達を狙って工場や病院の近く」、「家族連れ狙いで住宅街の近く」、「ファミリーレストランの近く」、「静かで風景のよい地域に高級店を出店してはどうか」等、様々な視点から多くの意見が出ました。

全体協議では、各グループの代表者が出店理由を明確にしなが、グループで選定した出店場所について分かりやすく説明をしました。



グループで考えた出店計画を発表する生徒

### 出店計画のプロがサプライズ登場

生徒の発表後には、日本マクドナルド株式会社で実際に出店計画を担当している古海奈央氏が登場し、プロの視点で各グループのアイデアに対してコメントしました。生徒はフィードバックされた評価や改善点等の情報から、さらに考えを深めることができました。

授業の最後には、生徒は地元の馴染みのハンバーガー店の1日の売上の予測に挑戦し、日商や年商の考え方や計算方法についても学びました。



各グループの出店計画に対してコメントする古海氏



職員が作成した教材を紹介する藤原氏



遠隔で授業を受けている別教室の様子



ブレインストーミングの手法で自分達の考えを整理しました。

### 商品×サービス≧価格

生徒はどんな店が流行るのか、その要因を探究する活動に、主体的に取り組んでいました。

グループでの協働的な学習の場面では、富塚教育長をはじめ教育庁職員や他校の教員も話し合いに参加し、課題解決に向けて意見を出し合いました。

生徒はグループでの話し合いの結果をもとに、商売繁盛の方程式を考え、端末から送信して学年全体で共有しました。

### 生徒の感想

✓新しい発想をすることの大切さ等、特別授業で学んだことは、自分の将来のためになると思いました。

✓友達と意見を出し合い、答えを導き出していくプロセスがとても楽しかったです。